

日本版Vineland－Ⅱ 適応行動尺度

講師: 辻井 正次先生

- ・目指すのは換算シートを用いて1時間以内に取り取る事を目標(2～3回の経験を重ねるうちに)理想としては、生育歴を20分程度で聞き取りをしながら進めていくのがよい。
- ・Vineland－Ⅲが北欧では取り入れられている。日本では、2030年頃に取り入れられる。
- ・**行動**そのものを評価するものであり、**個人の可能性**を評価しない。
- ・**ポテンシャルとして出来るのかではなく、やっているかの評価をする。**

・適応行動とは

困ったことをなくしていきましょうという考え方ではない。

本人が日常生活を送っていくためにできたらいいなあという、日常生活を**安全かつ自立的**に送るために必要となる**年齢相応**のスキル

・不適応行動とは

ストレスへの不適切な対処行動

・点数の付け方について

開始年齢から評価をしていく。

「0」はできない。やったことがない。

「1」は部分的で、できたり、できなかつたりする。支援があるとできる。

「2」は支援がなくても一貫してできる。

「DK」は3つ以上あるとスコア算定が出来ないために。聞き取りの際にできるだけ言わせないように聞く。

・実際に進めていく方法

検査項目についてはそのまま読まない。迷ったら読むのは可。

それぞれの項目で同じマークはまとめて聞いていくようにする。

(コミュニケーション 理解: ■ 聞き取り・注意♡ 指示の実行○)

「人の話しはどこまで聞ける?」「例えば、園長先生の長話があったら?」「30分、15分、5分?」

「どこまで話を分かっている?」「体のことで言うと、目や鼻や口はどう?」